

# 第2回 三遠南信地域産学官人財育成円卓会議

日時：平成26年2月17日（月）14時～

場所：ホテルクラウンパレス浜松 松の間

## 次 第

1. 開会
2. 挨拶 SENA会長 鈴木浜松市長
3. 趣旨説明
  - (1)三遠南信地域産学官人財育成円卓会議の趣旨、経緯について
  - (2)三遠南信地域産学官人財育成ワーキング(計2回)の説明
  - (3)三遠南信地域産学官人財育成に向けたアクションプランについて
4. 討議
  - (1)テーマ1 人財マッチング事業について
  - (2)テーマ2 人財育成事業について
  - (3)テーマ3 三遠南信地域への定住化について
  - (4)推進体制について
5. まとめ
6. 閉会

資料 1 出席者名簿

資料 2 三遠南信地域産学官人財育成円卓会議の趣旨、経緯について

資料 3 三遠南信地域産学官人財育成ワーキングの検討について

資料 4 報告 一三遠南信地域の大学の学生数と就職状況について

資料 5 三遠南信地域産学官人財育成に向けたアクションプランについて

1. 背景
2. 三遠南信地域の「人財」の育成・定着化に向けた基本的考え方
3. アクションプランの体系
4. アクションプランの内容
5. 事業の進め方（推進体制）

その他 三遠南信地域の大学紹介 等

# 資料1 出席者名簿

3

## 経済界

イシグロ農材(株) 代表取締役社長	石黒 功
小池商事(株) 代表取締役社長	小池 高弘
(株)サーラコーポレーション 代表取締役社長	神野 吾郎
(株)トヨテック 代表取締役社長	小野 喜明
聖隸福祉事業団 理事長	山本 敏博
浜松信用金庫 理事長	御室 健一郎
(公財)浜松地域イノベーション推進機構 理事長	津田 紘 (欠席)
(株)フジヤマ 代表取締役社長	藤山 義修
毎日企業(株) 代表取締役社長	吉崎 敬次
(株)蔵 代表取締役社長	金田 三千男 (欠席)
多摩川精機(株) 代表取締役副会長	萩本 範文

## 大学

愛知大学 学長	佐藤 元彦
愛知工科大学 学長	安田 孝志
豊橋技術科学大学 副学長	寺嶋 一彦
豊橋創造大学 学長	伊藤 晴康
静岡産業大学 学長	三枝 幸文
静岡大学 副学長	木村 雅和
静岡文化芸術大学 副学長	宮内 博実
静岡理工科大学 学長	荒木 信幸
浜松学院大学 学長	雨宮 正一
常葉大学 浜松キャンパス長・副学長	田中 誠一
光産業創成大学院大学 リエゾンセンター長	江田 英雄
飯田女子短期大学 学長	高松 彰充

## 行政

SENA会長 浜松市長	鈴木 康友
SENA副会長 豊橋市長	佐原 光一
SENA副会長 飯田市長	牧野 光朗

## コーディネーター

SENAアドバイザー 愛知大学 教授	戸田 敏行
--------------------	-------

## オブザーバー

文部科学省高等教育局専門教育課 企画官 小林洋介
浜松市立高等学校 校長 杉浦文夫

### ○三遠南信地域産学官人財育成円卓会議の趣旨

- ・人口減少が想定される社会構造の中で、地域の持続性を確保するには、新たな価値創造の担い手となる人財の育成が最大の課題であり、産学官によって極めて戦略的に行わなければならない。
- ・こうしたことから、文部科学省においても産学協働体制による人財の育成や高等教育のあり方を探ることを目的とした「産学協働人財育成円卓会議(平成23年7月27日)」が開催されている。
- ・県境を越えた地域形成を進める三遠南信地域では、三遠南信地域連携ビジョンに沿って、地域内に立地する16大学学長による『三遠南信大学フォーラム』の設置が準備段階にあり、次代の地域を担う人財の育成について検討協議されているほか、平成24年10月24日には「三遠南信地域大学シンポジウム」が開催されている。
- ・こうした背景から前述のシンポジウムの発展形として、全16大学をコアメンバーとして、行政、産業界を加えた産学官による「三遠南信地域産学官人財育成円卓会議」を平成25年2月1日に開催した。

### ○三遠南信地域産学官人財育成円卓会議の経緯－第1回円卓会議の開催

三遠南信地域では、三遠南信地域連携ビジョンを基に、地域内の16大学学長による『三遠南信大学フォーラム』の設置が検討されており、次代の地域を担う人財の育成について検討協議するほか、平成23年10月24日には「三遠南信地域大学シンポジウム」を開催。

こうした背景からシンポジウムの発展形として、全16大学をコアメンバーとして、行政、産業界を加えた産学官による「三遠南信地域産学官人財育成円卓会議」を開催。

- ・日時 平成25年2月1日 14:00～17:00
- ・会場 ホテルクラウンパレス浜松4階「芙蓉」
- ・主催 三遠南信地域連携ビジョン推進会議(SENA)

機関名・参加者名(敬称略)		
大学	愛知大学 学長 愛知工科大学 学長 飯田女子短期大学 学長 静岡大学 学長 静岡産業大学 学長 静岡文化芸術大学 学長 静岡理工科大学 学長 豊橋技術科学大学 学長 豊橋創造大学 学長 浜松大学 学長 浜松学院大学 学長 光産業創成大学院大学 学長	佐藤 元彦 安田孝志 高松 信英(学長補佐 川上恒夫) 伊東 幸宏(副学長 理事 柳澤正) 三枝 幸文 熊倉 功夫 荒木 信幸 榎 佳之(副学長 寺嶋一彦(欠席)) 伊藤 晴康 中村 正義 雨宮 正一(地域共創センター長 佐藤克昭) 加藤 義章(リエゾンセンター長 江田英雄)
コーディネーター SENAアドバイザー 愛知大学 教授 戸田敏行		
オブザーバー		
国土交通省 國土政策局広域地方政策課 調査員 堀田真悟、研修員 木本賢人 文部科学省 高等教育局専門教育課 課長補佐 児玉大輔、専門官 杉江達也 新日本有限責任監査法人 大久保和孝 経済産業省 中部経済産業局産業人材政策課 課長 中村真一郎 関東経済産業局産業人材政策課 課長補佐 鶩津久美子		

#### プログラム

1. 開会
2. 挨拶 SENA会長
3. 趣旨説明
  - (1)目的と全体像
  - (2)国の円卓会議の状況について
  - (3)三遠南信地域の人財育成の状況
4. 意見交換会
 

コーディネーター :SENAアドバイザー 愛知大学 教授 戸田敏行氏  
パネリスト :11大学、5企業、3自治体
5. 取組方針 SENA会長
6. 閉会

# 資料3. 三遠南信地域産学官人財育成ワーキングの検討について ①開催概要<sup>6</sup>

## 第1回 三遠南信地域産学官人財育成ワーキング

日時	平成26年1月16日(木)14時～16時
場所	アクトシティ浜松コングレスセンター22会議室
参加企業(9社)	イシグロ農材(株)、(株)サーラコーポレーション、(株)トヨテック、(社福)聖隸福祉事業団、(公財)浜松地域イノベーション推進機構、浜松信用金庫、(株)フジヤマ、毎日企業(株)、多摩川精機(株)
参加大学(6大学)	愛知大学、豊橋創造大学、静岡大学、静岡産業大学、静岡理工大学、浜松学院大学

## 第2回 三遠南信地域産学官人財育成ワーキング

日時	日時:平成26年1月28日(火)14時～16時
場所	アクトシティ浜松コングレスセンター22会議室
参加企業(6社)	(株)サーラコーポレーション、(社福)聖隸福祉事業団、浜松信用金庫、(公財)浜松地域イノベーション推進機構、(株)フジヤマ、毎日企業(株)
参加大学(7大学)	愛知大学、豊橋技術科学大学、豊橋創造大学、静岡文化芸術大学、静岡理工大学、常葉大学、浜松学院大学

## 資料3. 三遠南信地域産学官人財育成ワーキングの検討について ②主な意見<sup>7</sup>

主な意見	
企業が求める人材像について (主に企業意見)	<ul style="list-style-type: none"><li>・フットワーク、チャレンジ精神、異質空間での体験</li><li>・柔軟性、自分から切り開くバイタリティー、広い視野</li><li>・グローバル化への対応、語学力、資格</li><li>・相手とのコミュニケーション能力、チームプレー、価値の共有</li></ul>
大学の取り組みについて (主に大学意見)	<ul style="list-style-type: none"><li>・基礎学力、基礎教養、学士力を身につけるための教育の充実</li><li>・インターンシップ、ビジネス研修などキャリア教育の充実</li><li>・課外活動の推奨、ものづくり実習の実践</li><li>・海外目線の育成</li><li>・小中高生への講義・教室</li></ul>
人財育成・定着化の方針について (双方の意見)	<ul style="list-style-type: none"><li>・地域への認識を早い段階から持たせる</li><li>・働く場所として地域が選択されるような仕組み</li><li>・地域資源を活かした多様な人財育成</li><li>・グローバルとローカルの視点での人財育成</li><li>・大学と企業が共に人財育成・定着を検討する環境を作る</li></ul>
アクションプログラムへの意見 (双方の意見)	<ul style="list-style-type: none"><li>・各機関の実績を活かして面的に展開</li><li>・既存の取り組みを活かしてできそうな事業から優先的に実施</li><li>・インターンシップの活用(アルバイト的、専門的)</li><li>・地域や企業の情報発信、情報集約(Web活用)</li><li>・アクティブラーニング、フィールドワークの導入</li></ul>

## 資料4. 報告 一三遠南信地域の大学の学生数と就職状況について

8

### 【大学へのアンケート調査の概要】

#### ○対象

- ・三遠南信地域に所在する16大学

#### ○実施時期

- ・平成26年1月月中旬～2月上旬

#### ○調査項目

- ・在学生数、卒業生数、就職先について把握

### 【三遠南信地域の16大学】

#### ○主が理工系(5校)

東三河(豊橋技術科学大学、愛知工科大学)、遠州(静岡大学工学部・情報学部、静岡理工科大学、光産業創成大学院大学)

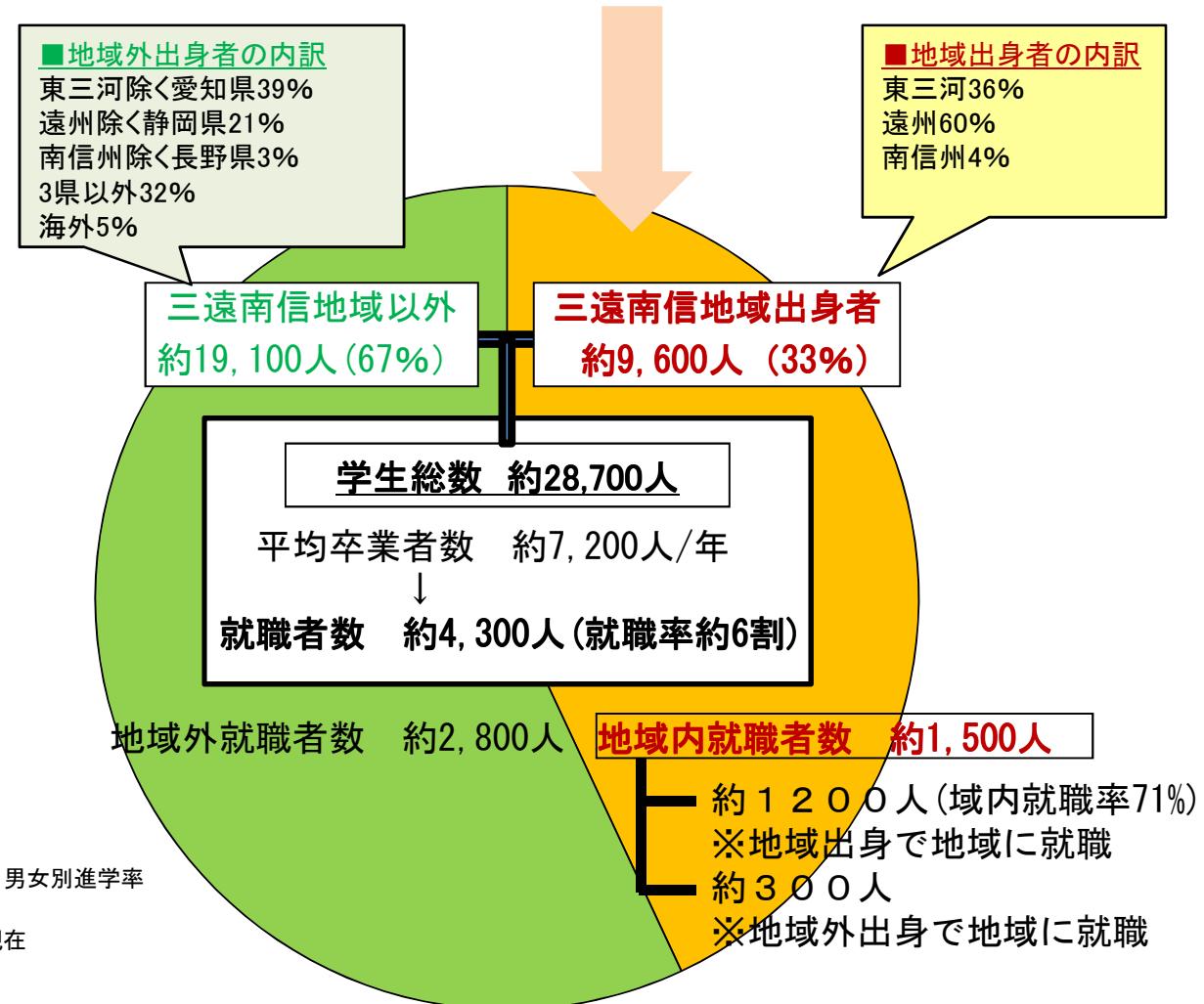
#### ○主が医療・看護・福祉系(6校)

東三河(豊橋創造大学)、遠州(浜松医科大学、聖隸クリストファー大学、常葉大学浜松キャンパス、東京女子医科大学)、南信州(長野県看護大学)

#### ○主が文系・デザイン系・経営系(5校)

東三河(愛知大学)、遠州(静岡文化芸術大学、浜松学院大学、静岡産業大学)、南信州(飯田女子短期大学)

三遠南信地域の定住人口から推計される潜在的な学生数は約12,600人であり、  
そのうち**三遠南信地域内の大学に進学する割合は2割**(約2,400人/年)であり、  
**約8割は地域外に進学。**(\*1)



\*1 : H22年国勢調査の16～18歳人口を基本とし、都道府県別・男女別進学率(H24.3学校基本調査)を利用して推計

\*2 : 大学アンケート調査より 調査年次：平成26年2月10日現在

・調査実施時期：平成26年1月14日～1月31日

※常葉大学浜松キャンパスを除く

# 資料5. 三遠南信地域産学官人財育成に向けたアクションプランについて①

9

## 1. 背景

人口減少が進む社会構造の中で、地域の持続性を確保するには、新たなイノベーション・価値創造の担い手となる人財の育成が最大の課題であり、産学官によって極めて戦略的に推進することが求められている。こうした中、文部科学省・経済産業省は産学協働体制による人財の育成や高等教育のあり方を探ることを目的とした「産学協働人財育成円卓会議(平成23年7月27日)」を開催し、日本社会における成長・質的転換モデルを見出し、社会を牽引するリーダーとなる博士・修士課程レベルのイノベーション「人財の育成」に着目した検討を行っている。

県境を越えた流域都市圏の創造を進める三遠南信地域では、三遠南信地域連携ビジョンに沿って、地域内に立地する16大学学長による『三遠南信大学フォーラム』の設置が準備段階にあり、次代の地域を担う人財の育成について検討協議されているほか、平成24年10月24日には「三遠南信地域大学シンポジウム」を、平成25年2月1日には地域大学をコアメンバーとして、行政、産業界を加えた産学官による「三遠南信地域産学官人財育成円卓会議」を開催し、人財育成・定着化に関する意見交換が行われた。

その結果、三遠南信地域連携ビジョン推進会議(SENA、会長：浜松市長)は、三遠南信地域の「人財」の育成・定着化・確保の推進に向けた具体的なアクションを起こすため、三遠南信地域の「人財」育成について、以下の取組方針を公表した。

①SENAは三遠南信地域連携ビジョンの政策の基本方針である持続発展的な産業集積の形成を目指し、人材・労働力の確保や育成、県境を越えた大学連携を推進するため、三遠南信地域の大学、経済界、行政が産学官の連携を図りながら円卓会議等の開催など、人財育成に係る環境整備を引き続き推進する。

②円卓会議は、企業と大学との人財マッチング情報交換会など具体的なアクションプロジェクトを検討し、三遠南信地域における「人財」の育成・定着化・確保を推進する。

③三遠南信地域における「人財」の育成・定着化・確保に資するプロジェクトについて、SENAはその事業推進に向けた協力・支援を行う。

## 2. 三遠南信地域の「人財」の育成・定着化に向けた基本的考え方

わが国が人口減少社会に突入する中、三遠南信地域においても確実に人口減少が進み、それは特に労働力人口（15歳以上64歳以下）で顕著となり、将来的に労働者不足による産業活動への影響や産業集積の崩壊による地域衰退化が懸念される。

このため、地域産業の維持・発展を図っていくためには、「人財」の育成・確保が不可欠であり、**地域経営として人財を育成し、定着・定住させる方策を講じていくことが必要である。**

人財の育成、定着・定住を推進するための基本的考え方は以下のとおりである。

### **①グローカルでイノベーティブな人財の育成・確保の推進**

大企業のみならず、中小企業や農業等の一次産業分野においてもグローバル化の進展が予想されるため、**グローバルとローカルの視点（グローカル）**に着目し、三遠南信地域の**多様な地域資源等**を活用したイノベーションを興せる人財を持続的に育成・確保する。

### **②地域資源による産学官連携の人財の育成・確保の仕組みの整備**

三遠南信地域の大学による**多様な学問領域**（経済、ビジネス、医療・福祉、工学等）や農業、製造業、商業・サービス業等の**バランスある産業集積**を活かし、**価値創造社会**に対応した**多様な経営力・技術力を**具備し、しかも**三遠南信地域に愛着**を持った人財の育成・確保を、大学や経済界・地方自治体の産学官連携によって推進する。

### **③人財の定着・定住に繋がる地域基盤整備の支援**

三遠南信地域は、産学官が県境を越えて連携できる仕組みを持った大きな広域経済圏の形成を目指しているため、多様な生活、文化等の環境を活かしながら、人財の定着・定住に繋がるような地域基盤の整備を支援する。

# 資料5. 三遠南信地域産学官人財育成に向けたアクションプランについて③<sup>11</sup>

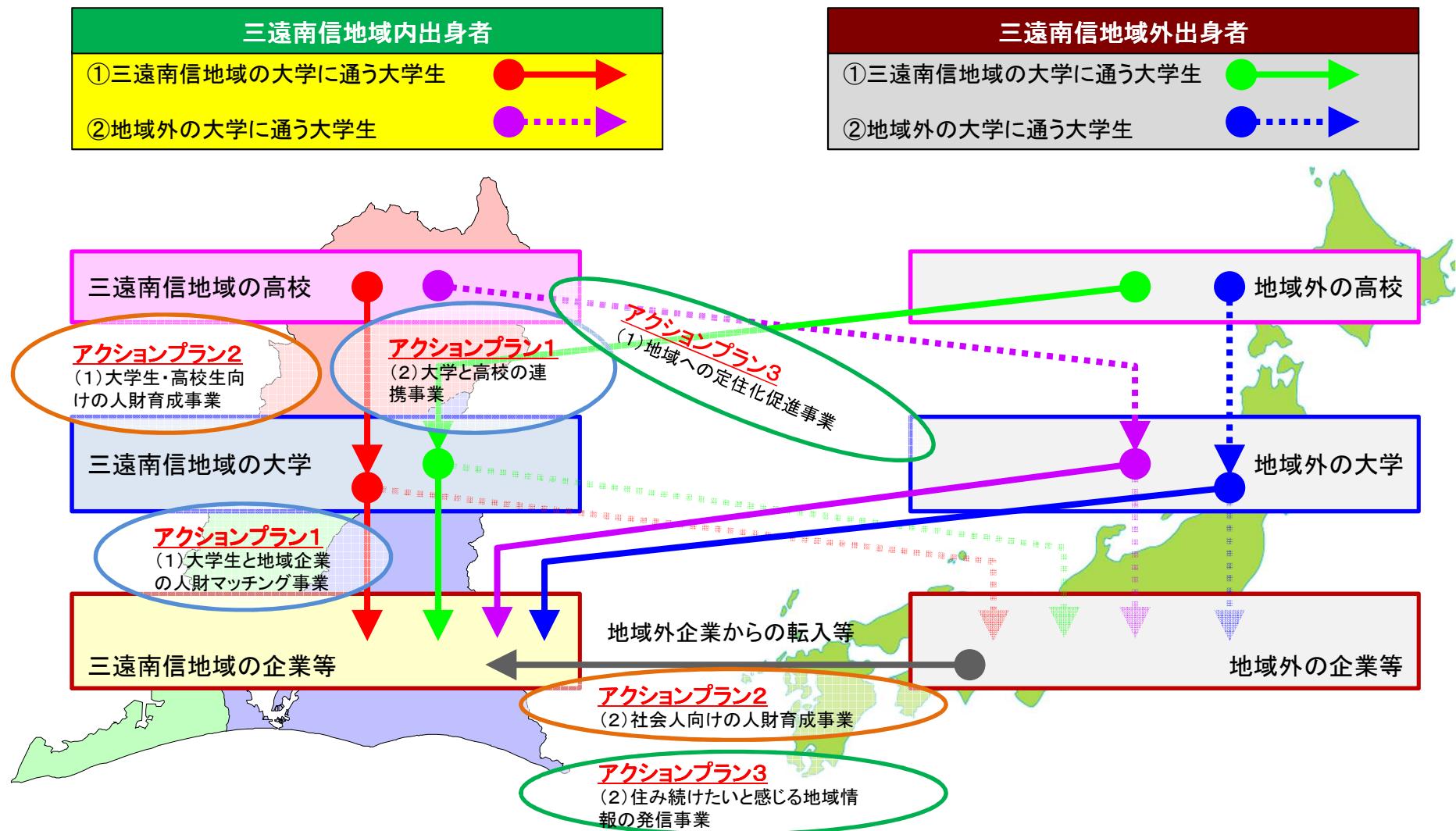
## 3. アクションプランの体系



朱書き下線の事業を候補として次の事業展開を図る

## 資料5. 三遠南信地域産学官人財育成に向けたアクションプランについて③<sup>12</sup>

### 4. アクションプランの体系と人財の関係



# 資料5. 三遠南信地域産学官人財育成に向けたアクションプランについて④

13

## 5. アクションプランの内容

### アクションプラン1. 人財マッチング事業

(1)大学生と地域企業との人財マッチング事業	1)大学生と地域企業の交流促進事業	<p><b>①地域企業経営者との対話・交流機会の創出</b></p> <p>※進め方のイメージ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■企業、経済界のトップが大学生に対して授業・ディスカッションを行う</li> <li>②地域企業が独自に実施している公開講座への大学生の参加</li> <li>③大学生の研究や地域貢献活動についてのプレゼンテーション機会の創出</li> </ul>
	2)地域資源を活用した多様なインターンシップの推進	<p><b>①地域の特徴をとらえたインターンシッププログラムの開発</b></p> <p>例:複数企業連携型インターンシップ 農商工連携・農林水産業インターンシップ 海外インターンシップ</p> <p>※進め方のイメージ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■各大学が実施しているインターンシッププログラム情報の共有</li> <li>■企業受け入れ先と各大学の総合コーディネート</li> <li>②企業が内定を出す前提での実践型採用直結インターンシップの実施</li> <li>③個々の自治体が保有する公的施設等を利用した遠方インターン生の滞在支援</li> <li>④地域企業のインターンシップ導入セミナーの開催</li> </ul>
	3)就職活動支援Webサイトの整備 ((仮)三遠南信地域人財ナビ)	<p>①地域企業情報の発信サイト</p> <p>※進め方のイメージ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■三遠南信地域が誇る特徴的の企業の情報発信サイト運営</li> <li>②地域企業への就職希望エントリーシステム(インターンシップ含む)</li> </ul>
(2)大学と高校の連携事業	1)高校生の地域大学理解の促進	<p><b>①大学講義を高校生に開放し、地域大学への関心や理解を醸成</b></p> <p>※進め方のイメージ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■「三遠南信オープンキャンパス」各大学が実施している高校生向け オープンキャンパス等で高校生向け講義の情報共有、web発信</li> </ul>
	2)大学と高校が連携した情報発信事業	<p><b>①大学のキャンパスや授業を紹介する冊子を作成し高校へ普及</b></p>
	3)地域企業の見学会等による企業情報の発信	<p>①大学生・高校生を対象とした企業見学会や説明会を実施し、企業情報を発信</p>

朱書き下線の事業を候補として次の事業展開を図る

# 資料5. 三遠南信地域産学官人財育成に向けたアクションプランについて④

14

## 5. アクションプランの内容

### アクションプラン2. 人財育成事業

(1)大学生・高校生向けの人財育成事業	1)インターンバイトの実施	<b>①資格取得などに繋がるアルバイト型インターンシップの実施</b> (建築士、施工管理技士、FP等) ※進め方のイメージ ■企業理解を促進するアルバイト型インターシッププログラムの企業との共同作成
	2)地域の活性化に繋がる人財育成事業	<b>①行政、経済界からの地域課題に対応した大学(ゼミ等)コラボレーション事業の実施</b> ※進め方のイメージ ■地域や経済界(企業)が抱える地域課題を提供頂き、その情報を一元化して各大学へ投げかける ゼミの専門分野とマッチングさせ、PBL(Project-Based Learning 課題解決型学習)の教育プログラムをゼミ等で実施する ②社会人、大学生、高校生が参加する三遠南信ビジネスプランコンテストの実施 ③大学・産業支援機関等による産学官共同事業の推進
	3)大学生のコミュニケーション能力向上プログラムの開発	①大学間の専門分野の単位互換制度の充実化 ②ワークショップ方式による複数校参加型授業の導入
	4)地域企業の能力を活用した人財育成事業の充実	①地域企業が得意とする専門分野について大学との連携による大学講座(冠講座)の実施
(2)社会人向けの人財育成事業	1)地域イノベーション人財育成事業の推進	<b>①商工会議所、商工会が実施する研修プログラムの統合化による多様な研修機会の提供</b> ※進め方のイメージ ■東三河広域経済連合会のプロジェクトをベースに、社会人向け研修・セミナーの一部を大学も手がけ、経済界と大学が共同で社会人向け研修・セミナーのプログラムを作成する ②異業種・異分野の企業人・学生等が集まる広域的な交流サロンの実施
	2)企業の新分野進出支援等のための人財育成事業	①社会人博士制度(入学の地域枠等)の充実 ②社会人向けに短期集中型の新分野修学カリキュラムの整備 ③社会人向けの聴講制度の料金低額化
	3)社会人インターンシップ制度の整備	①技術系人財が営業・小売販売、営業系人財が技術系でのインターンシップ ②遠方の商工会議所等との連携による広域エリアでの社会人インターンシップ ③知的財産活用型のインターンシップ

朱書き下線の事業を候補として次の事業展開を図る

# 資料5. 三遠南信地域産学官人財育成に向けたアクションプランについて④

15

## 5. アクションプランの内容

### アクションプラン3. 三遠南信地域への定住化

(1) 地域への定住化促進事業	1) 地域大学への進学促進事業	<b>①大学、行政、経済界のトップによる高校生に対する授業</b> ※進め方のイメージ ■大学、行政、経済界のトップが高校生に対して理念・思想を語る授業を行う。
	2) 地域へのUターン人財の確保	<b>①高校の卒業生データを活用して、三遠南信地域へのUターン人財の確保</b>
(2) 住み続けたいと感じる地域情報の発信事業	1) 大都市圏など地域外に対する地域情報の発信	<b>①三遠南信地域のライフスタイルの紹介冊子の作成と大都市圏でのPR</b>
	2) 大学生や高校生に対する地域情報の発信	<b>①地域の産業・文化・生活環境等や地域のNPO等に関する公開講座の実施</b> <b>②地域企業の事業活動の紹介等に関する公開講座の実施</b>

朱書き下線の事業を候補として次の事業展開を図る

## 6. 事業の進め方(推進体制)

### (1) 基本的考え方

- ・大学、企業、行政等が既に事業を実施している場合は、原則、当該事業主体が事業を継続するものとする。
- ・三遠南信地域全体として進められるよう、窓口の一本化等の情報の共有化を進める。
- ・新たに行う事業は、事業主体、費用拠出等を含めてSENA、経済界、自治体、大学を含め、産・学・官・民が調整し決定するものとする。

### (2) 事業推進の枠組み

#### ①想定される事業主体について

- ・SENA、三遠南信地域の自治体等、三遠南信地域経済開発協議会、商工会・商工会議所、個別企業、大学、住民団体、研究機関・産業支援機関 等

#### ②事業費について

- ・会費等による徴収
- ・受益者の負担
- ・文部科学省等の国、県の事業採択 等

## 資料5. 三遠南信地域産学官人財育成に向けたアクションプランについて⑤<sup>17</sup>

### 6. 事業の進め方(推進体制イメージ)

